



開催の様子

砂鉄川を語る会 地域を守る河川事業を振り返る

堤防ができるまでの砂鉄川は水害常襲地帯で、平成14年7月洪水では台風第6号の猛威により深刻な被害が発生しました。

これを受け、抜本的な治水対策を講じる「河川災害復旧等関連緊急事業」に着手し、短期間に重点的に事業の推進を図りました。

しかし、治水施設の役割は、普段の生活の中で実感・体感することが少ないため、時間の経過とともに、地域の水害リスクに対する認知度が低下し、防災意識も薄れてしまいがちです。

このため、事業完成から10年の節目に、治水施設の生い立ちを振り返り、その役割や地域の水害リスクについて再認識していただくため平成28年10月29日(土)に一関市川崎市民センターで開催しました。



平成14年7月台風第6号による大洪水



平成28年8月撮影

地域を守る河川事業を振り返る

【メンバー】

松川 誠 氏 株式会社岩販 代表取締役社長
元東山町長

千葉 莊 氏 社会福祉法人寿松苑 理事
共同組合東磐テクノウツ 理事
元川崎村長

青山 俊樹 氏 一般社団法人 建設技術者センター 理事長
元国土交通事務次官

福田 昌史 氏 四国クリエイト協会 理事長
元国土交通省河川局治水課長

【コーディネーター】

清水 晃 氏 国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所長



水質事故対策訓練実施 水沢水辺プラザ

平成28年11月2日(水)に、北上川水系水質汚濁対策連絡協議会上流支局(上流支局長:岩手河川国道事務所長)では、毎年、岩手県内の関係機関で油流出等の水質事故における拡大防止対策として、オイルフェンスの設置や油回収の方法等についての訓練を実施しました。

オイルフェンス設置訓練



吸着材による油回収実験



河川の水は、飲料水・工業用水・かんがい用水などに利用されており、事故により油などが流出すると取水停止、生態系への影響など重大な被害が予想されます。また、その処理に多大な労力と費用を要する場合があります。

これから灯油等の取り扱いが増える冬季になり、油流出事故の発生増加が懸念されることから、国、県、市町村等の関係機関で連携し、水質状況の把握及び被害の拡大防止対策を迅速かつ的確に実施できる体制を確立するために行いました。

◆◆編集後記◆◆スポーツの秋、食欲の秋 みなさんは何を楽しんでますか？先月は国体、商工祭・農業祭 楽しいイベントや美味しいイベントがあり盛り上がっているようですね。私はあいぽーとから見る紅葉を楽しんでいます。(あ)